

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



夏祭り

薬剤師の立場から

はじめまして、令和6年4月1日にあわら病院へ赴任いたしました薬剤科長の南山啓吾と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。薬剤師の立場から発信させていただきたいと思えます。

私は、「多くの人の笑顔のために」の病院方針のもと、患者さんの安心・安全を最優先に考え、調剤や医薬品の情報提供を今まで以上に適切に行っていきたいと考えております。

後発医薬品供給不安の状況はまだまだ継続しており、武見厚生労働大臣は、後発品について「わが国の医療保険制度を支える基盤」とした上で、その中で供給不安が続いている現状を「異常事態」と発言しています。

このような状況においても我々薬剤師は可能な限り患者さんの迷惑にならないよう、また安心・安全な医薬品を届けられるよう日々業務に邁進しているところです。

早くこの「異常事態」が解消され、患者さんの不安を取り除いて医療関係者の業務負担も軽減されていくことを切に願うばかりです。



薬剤科長
南山 啓吾

血液腫瘍・がん医療

血液・腫瘍内科医長 大槻 希美

前回は終末期について述べましたが、今回はその中の終末期の輸血について述べます。血液疾患に関しては緩和として輸血を行うことがあります。固形腫瘍に関しては終末期に輸血を行わないことが選択されることが多いです。一方、血液疾患患者で輸血依存をきたす状態であると、輸血を打ち切ることが生活の質低下に直結するため、緩和目的で輸血している場合があります。輸血間隔は病状の進行で短くなり、週に1回となるケースもあります。週1回でも維持できない場合は輸血不応とも考えられ、有効性を認めないために中止することが選択されます。この、週1回の通院は体が動

ける状態でも負担ではありますが、終末期になると通院の負担が大きく、在宅療養が困難となる一因です。また、血小板低下が引き起こす「命にかかわる出血」が起こる可能性が高い状態というのは、在宅療養において負担が大きいと思われます。在宅療養は多くの手が必要です。一か所に負担がかかりすぎないように「多くの手」で終末期を支えることを意識して調整しています。



高齢者心不全とフレイル

院長・循環器科 見附 保彦

心不全に対する治療は近日格段に進歩し、従来は治療困難と考えられていたいくつかの心疾患に対しても、その有効な治療介入が導入され始めています。しかしながら高齢者心不全患者は増加し、特に再入院の多さはやはりまだ根本的な解決の得られない大きな問題です。高齢者心不全症例の一つの特徴としてフレイルのような合併症の頻度が高いこと、さらにこれらの合併症は、心不全治療の効果を修飾し時には合併症そのものが、その患者さんの予後規定因子となりえます。また高齢者心不全患者においては身体的フレイルのみならず、社会的あるいは精神的フレイルも重要な問題であり、医療介護に携わる多職種チームアプローチの重要性がより求められているといえるのではないのでしょうか。当院では地域包括ケアに参加するすべての職種によるICFを用いた患者評価を行い、急性期から慢性期、入院から外来、さらに在宅へと継続性のある治療とケアを遂行し、より質の高い心不全診療を提供できるようスタッフが一丸となって取り組んでいます。

ら、社会的あるいは精神的フレイルも重要な問題であり、医療介護に携わる多職種チームアプローチの重要性がより求められているといえるのではないのでしょうか。当院では地域包括ケアに参加するすべての職種によるICFを用いた患者評価を行い、急性期から慢性期、入院から外来、さらに在宅へと継続性のある治療とケアを遂行し、より質の高い心不全診療を提供できるようスタッフが一丸となって取り組んでいます。



診療科便り ～小児科～

診療部長・小児科 川満 徹

当院小児科では、常勤2名、非常勤1名に加え、木曜は大学病院からも外来の診療に来てもらっています。診療内容としては、入所されている重症心身障がい児(者)の日々の診療に当たっている事と、午後は一般小児科外来の診療も行っています。他に、病棟6Fのフロアを利用して展開している在宅重症心身障がい児(者)の方々への通所サービスの際の医療的サポートも実施しています。

病棟の重症者の方達は、障害の原因も病態も様々ですが、医療面での課題は共通するところも多く、その中でも感染症への対応は非常に重要なものです。一般の方に比べ、感染症が発生しやすい事に加え、一旦感

染症が起きると重症化しやすい事も特徴です。従って、早期発見&早期対応が極めて重要になってきます。

外来を受診される子供たちも、ワクチン接種を除けば感染症が主な理由になっています。

昨今、コロナ禍前に比べ、流行する感染症の種類や流行り方、重症度などに変化が見られる様になっており、医療者もこれまで以上に感染症に対する意識を高めていかなくてはならないと思っている今日この頃です。





地域医療連携施設のご紹介



あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

社会福祉法人 この道福祉会 この道グループ福井北 朝焼けとひつじ雲

当法人では福井市北部の森田地区に「この道グループ福井北(障害福祉サービス：共同生活援助事業／介護サービス包括型)」と「朝焼けとひつじ雲(介護保険サービス：小規模多機能型居宅介護事業)」を併設し運営を行っております。
 ※令和6年7月1日現在、この道グループ福井北は定員21名(入居者20名)、朝焼けとひつじ雲は定員18名(登録者18名、平均介護度2.83)。



当事業所には生活困窮の方や身寄りのない方など、地域生活に支援の必要な方が多く利用されています。そのため受診同行や買い物代行／同行、行政等手続き代行／同行など、より手厚い生活面の支援が必要となっています。家族(成年後見人)や相談支援専門員／介護支援専門員はもちろんのこと、医師(訪問診療の主治医)や訪問系サービスとの情報交換など、多職種連携し支援を行っています。

「看取りケア」にも力を入れており、住み慣れた場所で最期まで生活を継続できるような事業所で在りたいと考え、日々の支援を振り返りながら利用者向き合っています。



社会福祉法人 この道福祉会
 事業所名 この道グループ福井北
 サービス種別 共同生活援助(介護サービス包括型)
 事業所名 朝焼けとひつじ雲
 サービス種別 小規模多機能型居宅介護
 〒910-0125 福井市石盛2丁目2015番地
 TEL(0776)97-9077 FAX(0776)97-9076

地域医療連携室だより

地域医療連携室係長 橋本 慎平

当院では新型コロナウイルスの影響により面会の制限を行い、長らくご不便をおかけしましたが、6月10日より予約無しでの対面面会の運用に変更になりました。

さて、地域医療連携室では、前方支援担当として地域医療連携室看護師が医療機関からの患者さんの入院・転院依頼があった際に日程調整などを行う転院受入調整業務を行っています。

その際、入院・転院の受入が可能かどうかできる限り早く判断するため、診療情報提供書とADL表を事前にいただいております。しかしながら近年は、地域医療構想による医療機能の住み分けが進む一方で、医療の高度化、患者さんの重症化、抱える疾患の複雑化が増している状況です。そのため、従来よりも多くの事

前情報が求められるようになり、紹介元の医療機関に繰り返し情報提供をお願いする状況が増えてきました。例えばリハビリ介入実績の有無や介入実績があった場合のリハビリ算定種別をはじめ、介護保険、高度な医療処置に対する情報等について、各担当部署からその都度依頼を受けて、必要な情報を紹介元医療機関に確認しています。

今後はこれまで使用していた情報シートの書式を変更して必要な情報を効率よくやりとりできるような連携の方式を整備し、効率的でスムーズなよりよい入院・転院に繋がってきたいと考えています。



外来担当医表

(令和6年8月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	見附 保彦	見附 保彦	大槻 希美	鈴木 友輔 ^(第1・2・3・5) 見附 保彦 ^(第4)	海野 優矢
	小児科	川満 徹*	川満 徹*	川満 徹*	福井大学医師 ^{(第1・3・5)*} 福岡 諒 ^{(第2・4)*}	川満 徹*
専門	リウマチ		津谷 寛		津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正*		大槻 希美 ^(第2・4)
	生活習慣病			鈴木 友輔 ^(第2・4)		伊藤 和広
	老年					栗田 敦 ^(第1・3・5)
	神経			浅野 礼 ^(第1・3・5)		
	循環器			見附 保彦	見附 保彦	
	外科	斉藤 貢	斉藤 貢	斉藤 貢	斉藤 貢	斉藤 貢
	整形外科	伊興部 貴大				
	眼科				吉岡 達也*	
	皮膚科		若原 真美*			
	地域ケア	鈴木 友輔*				
禁煙外来	見附 保彦					

● 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診察 ● 休診日/土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(受付時間8:40~11:30)です。

※最新の医療体制についてはあわら病院ブログ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



栄養管理室だより

栄養管理室長 宮城 正和

令和6年度診療報酬改訂において、栄養管理に関する項目も様々な見直しが行われました。中でも特に注目すべきは、低栄養の世界的基準である「GLIM(Global Leadership Initiative on Malnutrition)基準」です。GLIM基準による栄養評価では、表現型基準3項目(意図しない体重減少、低BMI、筋肉量減少)と病因基準2項目(食事摂取量減少/消化吸収能低下、疾患による負荷/炎症反応)があり、両基準からそれぞれ1つ以上の項目が該当する場合、低栄養と評価します。アルブミンのような、単一の指標で判断するのではなく、体重変化や食事摂取状況など、比較的入手しやすい患者情報を複合的に用いる点の特徴と言えます。

「食事摂取は良好か」、「最近体重が減っていないだろうか」などの身近な情報を大切に、これからも栄養管理に努めてまいります。



プロカルシトニン測定装置を導入しました

臨床検査技師 檜尾 匡人

発熱や炎症を発症した患者さんにとって、それが細菌感染によるものかどうか、また細菌感染であった場合、感染の重症度を知ることは患者さんの生命の危機や予後のQOLを考える上で重要な指標となります。プロカルシトニン(以下PCT)検査は重症細菌感染症や敗血症では著しく上昇し、敗血症を診断する際に非常に有用となります。更にPCTは炎症マーカーであるCRPよりも上昇が早く現れるため早期に敗血症を鑑別することが期待できます。今回当院では「ラピッドピア®」というPCTを測定できる装置を導入しました。同検査は血算等に用いるEDTA採血管で検査が行えますので追加の採血が必要なく検査できます。また結果報告も従来は外注検査のため報告に1~2日要していましたが、同検査は10分程度で院内実施できることから迅速に敗血症の鑑別および重症度評価を行うことが期待できます。



独立行政法人

国立病院機構あわら病院

福井県あわら市北潟238-1

TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249

〈地域医療連携室〉 FAX.0776-79-1261

URL <http://www.awara-hosp.jp/>

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

ハピラインふくい線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話一本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017